

平成24年度 元気で岩手の海展〈特別授業〉 開催案内

東日本大震災津波により、瓦礫の流入や海底のかく乱、地盤沈下等により岩手の海には大きな変化が生じ、海の生き物たちにも大きな影響を与えました。しかし、その後、海の環境や生き物たちは回復の方向に進んできています。昨年度は第1回目の「元気で岩手の海展」を開催し、被災後の海の状況を見ていただきました。今年度は、さらに1年経過し回復が進んだ状況を、研究機関の研究成果や写真等で皆さんに見ていただきたく、9月21日～10月21日まで岩手の海展を開催しています。

また、今年度は特別授業を開催し、皆さんに、より海や海の生き物について理解を深めていただき、併せて岩手の水産物をこれまで以上に食生活に取り入れていただければ幸いです。

日時：平成24年10月14日（日）13：00～15：00

場所：岩手県立水産科学館ウォリヤス（宮古市日立浜町32-28）

主催：いわて海洋研究コンソーシアム※、岩手県立水産科学館

（※岩手県水産技術センター、東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター、
（独）水産総合研究センター東北区水産研究所（資源生産部資源増殖グループ）、
国立大学法人岩手大学、北里大学海洋生命科学部）

次 第

1 開会

2 趣旨説明

3 特別授業

（1）「明らかになったウナギのなぞ」

東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター 大竹二雄 教授

（2）「岩手県のアワビと震災の影響」（仮題）

岩手県水産技術センター 高橋禎 副所長兼漁場保全部長

（3）「宮古湾の藻場とニシン」

（独）水産総合研究センター東北区水産研究所資源生産部 大河内裕之 資源増殖グループ長

（4）「遺伝子からみたサケの海での暮らし」

国立大学法人岩手大学三陸復興推進機構 阿部周一 特任教授

4 閉会



天然ニホンウナギ卵と仔魚



宮古湾で回復に向かっているアマモ場